

海とくらしの史料館のあり方に関する 提言書

令和4年3月

海とくらしの史料館のあり方検討委員会

海とくらしの史料館のあり方に関する提言

境漁港で水揚げされる魚や水産について、また、境港（さかいこう）や境漁港の歴史についての「学習」と境港市を訪れる人々を楽しませる「観光」とが複合した観光型学習施設を目指すことが必要であると提言します。

目指す姿（目標数値）

（目指す姿）年間を通じて多くの入館者で賑わう施設

（目標数値）年間入館者数 1 5 万人（有料入館者数 1 0 万人）

※施設開館年度の入館者数 1 5 万人を目標に設定

（メインターゲット）小学校低学年までの児童と保護者

（方針）目指す姿を実現するための 5 つの方針（3～7 頁）

目指す姿を実現するための方針①

◆集客へとつながる海と魚をテーマとした魅力的な展示

- ・ 境漁港で水揚げされる魚や基幹産業である水産を紹介する展示
→ 学習施設として楽しみながら魚の生態や産業を学べる施設
- ・ マンボウ、ホホジロザメ、リュウグウノツカイを施設のシンボルとしてメイン展示
- ・ はく製になった経緯の説明などストーリー性を持った展示
- ・ 所蔵するはく製を入替展示する企画展の開催
→ はく製の総花的な展示から転換し、はく製の魅力を最大限に発揮
- ・ 動画資料（魚の生態）の導入
→ 魚の生態（動く姿）を学ぶことができる動画資料と機器を整備

目指す姿を実現するための方針②

◆集客へとつながる「いつも新しい楽しさがある」施設運営

- ・館内ツアーガイドの説明を聞きながら観覧する方式を標準化
→ただ見るだけでは伝わらないはく製の魅力を館内ツアーガイドの説明により伝え切る工夫
- ・体験型プログラムの実施
→タッチプール、はく製スケッチ、親子で楽しめるプログラム等
- ・年間を通じた多彩なイベントの開催
→観光客の誘客に加えて地元の人たちのリピートを実現
- ・入館者の利便性を向上させるWiFi環境の整備
→学習・観光両面で時代遅れの施設とならないためのWiFi環境

目指す姿を実現するための方針③

◆フィールドミュージアムとしての施設

- ・まち全体を一つのミュージアムと捉えるフィールドミュージアムの視点を導入

→フィールドミュージアムの構成施設の一つとして海とくらしの史料館を位置づけることで、まち全体で施設への集客を図る。

- ・観光施設、文化施設、商業施設、文化財、史跡、港、海辺、市場等との連携

→施設相互案内、展示の住み分け、イベント共催、スタンプラリー等

- ・海とくらしの史料館周辺の文化財や史跡巡りの実施

→地域住民にボランティアガイドとして活躍してもらい、市民との協働で文化財についての学びの場を創出する。

目指す姿を実現するための方針④

◆市民の入館料を無料化

- ・市民の入館料を無料化することによる賑わい創出
 - 市民の有料入館者は現状ごく僅かであり、市民の無料化が入館料収入全体に与える影響は軽微。
 - 市民の来館がほぼ無料開放日に限定される施設から市民が日常的に訪れる賑わいあふれる施設への転換
- ・子育て世代が気軽に遊びに行ける親子の居場所として子育て世代を応援
 - 中庭の複合型遊具、授乳室、食事スペースを設置
 - 子どもの頃に遊んだ思い出が将来のファンを育てるという発想

目指す姿を実現するための方針⑤

◆境港市の歴史や海についての学習施設

- ・民具の展示を漁業関連に集約
 - ・その他の民具は常設展示を行わず、学校への出前授業に活用
- 民具の展示は集客効果が低いため、その他の民具については、近隣施設及び県内施設との役割分担が不可欠
- 民具について教室で学ばせたいという学校のニーズに対応し、出前授業に活用する。
- ・境港（さかいこう）や境漁港の歴史、境港市の海の環境やSDGsについて学ぶことのできる展示と学びの場の提供
 - ・「みなと丸」の展示については、船の老朽化が進んでおり、費用面を考慮し修繕を判断する。